

殺そ剤の種類と使用法

使 用 薬 剤	防 除 方 法	注 意 事 項
りん化亜鉛剤 Z・P 1. 0 0	1) 使用基準 50～200g/10a 2) 使用方法 本剤を3～5gの紙つつみまたはそのままでそ穴に投入するか、10a当り10～40か所に適宜配置する。山林ではバラまき（手まき）、定点配置する。	1 直接手で触れない。 2 酸類が作用すると有害なリン化水素を発生するので、酸類は絶対近づけない。 3 中毒が短時間に現れる急性殺そ剤である。
ダイファシン剤 ヤソデオン	1) 使用基準 200～300g/10a（農地） 2) 使用方法 ①手まきによる防除 a) 本剤 10～20g をそのまま、あるいは10～20g の小袋詰をそ穴に投入するか、野その通路に配置する。また、休耕地等は 10m×10m の格子状に本剤をそのまま、あるいは 10～30g の小袋詰を 1 か所 20～30g の割合で適宜配置する。 b) 本剤 5g をそのまま、あるいは 5g の小袋詰をそ穴に投入するか、野その通路に配置する。また、果樹園、桑園等は 5m×5m または 4m×4m の格子状に 1 か所に本剤 5g をそのまま、あるいは 5g の小袋詰を 1 袋配置する。 ②ベイトボックスによる防除 約 4 個/10a を適宜配置する。1 個当り本剤 50～70g を使用する。	1 累積毒のため、3～4回の連続接種が必要であり、効果が現れるまでに2～3日かかる。 2 殺そ剤の中で喫食性に優れている。

〈一般的注意事項〉

- （１）人畜に有毒な薬剤なので常に危害防止に努め、使用前後の取り扱い、保管管理にも十分注意する。
- （２）中毒死したネズミを食べ、犬、猫などの畜類が二次中毒を起こさないよう投入後に見回って死体を片づける。
- （３）地域全体で一斉防除を行うように計画する。
- （４）毒餌の材料は現地でネズミの好むものを使用することが最も喫食率が高い。
- （５）毒団子、毒粒の場合 200g 内外をビニールに包みハシなどで 1g 以内にちぎって穴に投入するようにし、指に触れないようにする。
- （６）毒餌は使い残りがないようにする。
- （７）野ねずみの被害実態を常に調査し、連年にわたって根気よく駆除を行う。
- （８）作業時には手袋等を使用し、薬剤に直接手がふれないように注意する。